



☆ビュッフェ形式☆

＜重度障害者を支援する＞実践者のための 視線&スイッチ入力のシンポジウム in 出雲国

趣 旨

重度障害者にとって「視線入力」はそのポテンシャルの高さは理解されつつも、機器が高額であったり、使用方法が難しいなどの点から、気楽に活用できる環境がありませんでした。一方で、この数年で安価な装置も登場し、特にコミュニケーションや特別教育支援において大きな成果が認められるようになってきました。また、依然として「スイッチ入力」が十分に活用されていない現状があります。

そこで、本シンポジウムでは「視線入力」のみならず「スイッチ入力」に関して、第一線で活躍する開発者・研究者・支援学校教員・当事者などを一同に集めて濃密なワークショップ（個別指導あり！）を行うこととなりました。



日 時 2018年7月29日（日）08時30分～16時00分

前日の7月28日には懇親会を行います（詳しくは申し込みサイトをご覧ください）

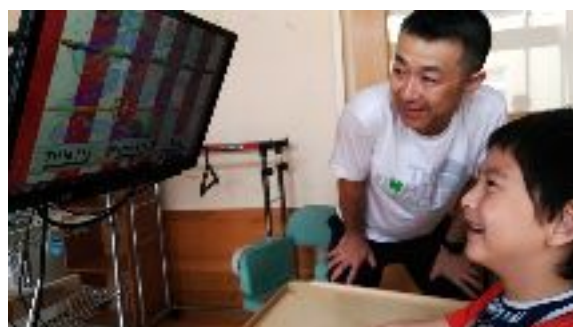
場 所 島根大学総合理工学部3号館2階多目的ホール

定 員 約50名

参加費 一般 10,000円・学生 5,000円

障害当事者につき介助者1名まで無料

呼吸器ユーザーの介助者は2名まで無料



タイムテーブル（暫定版）

時間	企画	内容
8:00	(開場)	
8:30～ 9:00	開場&オープニング	
9:00～10:30	講師紹介&事例紹介	講師のうち数名から事例発表と質疑応答を行います
10:30～12:00	ビュッフェ形式の個別指導①	1コマ15-30分で全講師がワークショップや個別相談会を行います
12:00～13:00	ランチセッション	(調整中)
13:00～14:30	ビュッフェ形式の個別指導②	1コマ15-30分で全講師がワークショップや個別相談会を行います
14:30～15:30	パネルディスカッション	講師のうち数名による熱いディスカッションと質疑応答を行います
15:30～16:00	まとめ&クロージング	

講師

(順不同)

氏名	所属/スキル	テーマ/内容
福島 勇	福岡市立今津特別支援学校 ・教諭 ・特別支援教育ブロガー&ユーザー	「振動フィードバックと併せて使いたい視線入力」 重度・重複障害とか重症心身障害と言われている子どもたちが因果関係を学ぶ手段の一つとして視線入力に取り組んでいます。その際に使うアプリの選定と併せて振動フィードバックを効果的に使うことが重要な要素であることを紹介します。
中島 勝幸	株式会社ユニコーン ・代表取締役 ・miyasuku EyeCon開発者	「全国行脚で得た『生の情報』をフィードバック！」 現場でのセッティングや設定方法、その他行政との折衝（補装具申請等）について、実際の導入に関する情報を紹介します。
小川 忍	株式会社ユニコーン ・miyasuku EyeCon開発者	「miyasuku EyeConシリーズをマスターしよう！」 開発者目線から、皆様をサポートします。 当日は、何でも質問して下さい！
吉藤 オリイ	株式会社オリイ研究所 ・Orihime、OriHime Eye開発者 ・ロボットコミュニケーター	「OriHime Eye と分身ロボット OriHime」 分身ロボットOriHimeの利用例および、OriHime eyeでの利用例の紹介。また、視線入力の車椅子や120cmのOriHimeなど、現在開発中の新しいメカやプロジェクトを紹介します。一緒に実験してくれる方、研究に協力してくれる方募集中。
イアノフ ・アレクサンデル	株式会社サイバーダイン ・生体電位スイッチCyin開発者	「サイバニックインタフェース Cyin福祉用」 Cyinはサイバニクス技術を応用したALS等の重度障害者向けスイッチです。実際に触ってスイッチ操作を体験してみましょう。
大杉 成喜	皇學館大学教育学部教授 ・ゲーム機操作支援機器の開発 ・シンプルテクノロジーの活用	「視線入力機器によるスイッチトイ操作からコンシューマゲーム操作へ」 これまで重度・重複障害のある子どもたちがワンスイッチで操作していたスイッチトイを、視線入力でも操作できるようにしました。さらに任天堂SWITCHなどコンシューマゲームも視線入力で制御・対戦できるようにし、「デキルこと」を拡げていきます。
引地 晶久	西部島根医療福祉センター ・作業療法士 ・島根県内の視線入力実践者	「重症心身障害と視線入力と作業療法」 作業療法士として反応の乏しい重症心身障害児者と関わる中で、視線入力と出会い、彼らの可能性は無限にある！と強く感じるようになりました。施設内を視線入力を持って走り回り、反応の引き出し・遊び・学習など様々な活動をしています。またご家族や学校との連携など、作業療法士ならではの視点でお話しできればと思っています。
板倉 ミサヲ	瑞雲荘（入所者） ・77歳の女子高生 ・スタイラスでiPadフル活用 ・四肢麻痺の車いす利用者	「iPadと自作スタイラスで女子高生やってます」 四肢不自由でもiPadを活用して自習や訪問授業をこなしています。教科書は自炊してiPadに入れ、アプリを活用して学習しています。そんな模様をお見せします。
橋本 紗貴	九州ルーテル学院大学（学生） ・多彩な支援機器を活用 ・車いす利用者 ・盲ろうの女子大生	「支援機器をフル活用して女子大生やってます」 さまざまな身体障害がありますが、大学に通い教員採用試験合格を目指しています。視線入力・スイッチ・タブレット・点字などを活用して、勉強だけでなく生活にも生かしています。

<p>高橋 宜盟</p>	<p>有限会社オフィス結アジア ・代表取締役 ・指伝話開発者</p>	<p>「機械ではなく機会です」 何を使うか？ではなく何をしたいか？が重要です。ICTも人も中身が大切。目的に合わせてコンテンツを自由に作成できる指伝話メモリを、事例を交えて、考え方・使い方をご紹介します。コミュニケーションのきっかけを広げてください。</p>
<p>中村 宏子</p>	<p>C I L 松江 ・寝たきり所長 ・口でくわえたスタイラスで自立した生活</p>	<p>「寝たきりでも自立して独居してます」 寝たきりでも口で操作するパソコンとヘルパーさんをフル活用して独居生活を楽しんでいます。CIL松江の所長として仕事もしています。パソコンとインターネットは重度障害者の生活には欠かせないものです。ぜひ、私の姿を見てください。</p>
<p>伊藤 史人</p>	<p>島根大学総合理工学研究科助教 ・EyeMoTシリーズ ・振動フィードバックシステム バイブマン開発者</p>	<p>「視線入力訓練ソフトEyeMoTの上手な使い方」 支援学校や病院でのEyeMoTの具体的な活用方法について相談に乗ります。視線履歴を使ったアセスメントや文字学習につなげるための方法などについてもお伝えします。</p>

申し込み（期限：7月22日17時）

Doorkeeper もしくは メールでお申し込みください。

<p>【Doorkeeper】</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>https://3d878a6e2acefa16fb70899216.doorkeeper.jp/events/75798</p>	<p>【メール】</p> <p>宛先： k-nishimura@u-shimane.ac.jp</p> <p>件名：7/29シンポジウム申し込み 本文：（以下の内容を明記してください）</p> <p style="text-align: center;">氏名／所属／職種／講師への質問（任意）</p>
--	---

主催 島根大学総合理工学研究科 伊藤史人
 出雲国スイッチ工房（島根大学）
協力 しまね難病相談支援センター



事務局 島根県立大学特別支援教育学研究室 西村健一 電話：0852-61-8712
実行委員 実行委員長 伊藤史人／委員 西村健一 ほか